

## 令和3年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
キャリアデザインⅠ	<p>・授業評価アンケートの結果は、いずれの項目もほぼ全学平均値と同等か、やや上がる水準であった。特に、「学生自身の授業目標到達度」では、本科目の回答平均値が全学平均値を3ポイントほど上回った。これは、上述の卒業生や社会人登壇回を設け、登壇者本人のリアルなキャリア形成を見聞することで、キャリアデザインに対する理解が深まったものと考えられる。このことは、授業評価アンケートの自由記述からも読み取ることができる。今後も継続していきたい。</p>
キャリアデザインⅠ（食産）	<p>「キャリアデザインⅠ」では、人生100年時代のキャリア形成を考えると共に、自己理解の必要性について伝えてきました。課題ワークシートやアセスメントツールを活用し、自己分析の方法も提示致しました。また、社会の第一線で活躍されている卒業生など外部講師の方の講話を聴き、職業選択に対して、視野を広げる事ができたかと思われます。</p> <p>最終課題である「キャリアデザインシート（大学生編）」の参考になるように、「4年生との座談会」も設けました。先輩たちの学生生活や就職活動を聞くことで、今後の学生生活のイメージが具体的にできたと思われます。一方、最終課題を確認すると、将来像について不透明な学生が多い印象を受けます。2年次の「キャリアデザインⅡ」では、「働く」「仕事」に焦点を当て、将来像を具体化できるようなシラバス構成にしていきます。</p> <p>なお、課題ワークシートの様式（Excel）について「使用しづらかった」との意見があります。ワークシートは、ご自身で考え、見やすいように加工して使用するよう指示しています。これは、「書類の見せ方」の練習だにご理解ください。また、「ペアワーク、出席送信の為に時間が短い」との意見があり、講義全体の時間配分を再度検討致します。</p> <p>キャリア科目は、大学卒業後、社会でも役に立つ知識やマナーを伝える役割もあります。キャリア理論・考え方やビジネスマナーなども低学年より伝えていきます。</p>
情報化社会と技術	<p>○この授業に関して、良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・力みすぎることなく、苦手な内容にもとりくむことができる説明と空気感が提供されていた。</li> </ul> <p>授業ペースについては特に問題がなかったようで良かったです。引き続き、できるだけ実用的な話題を取り入れながら講義をすすめていけるように工夫をしたいと思います。</p> <p>○改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題があった方がわすれることなく、確認しやすいと思った。</li> </ul> <p>もう少し提出課題を増やすなどの工夫を考えたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をやっているのかわからない、要点がわからない、など</li> </ul> <p>前期のデータサイエンス入門とは性格が異なる講義であるということは何度も申し上げたつもりでしたが、うまく伝わらなかった人もいます。特に看護の場合、資格試験対策に役立つものは無駄であるとの風潮が強いようです。そうでない種類の勉強もあるということに気づいてほしいと思います。</p> <p>○その他、意見、感想、要望など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータが苦手なので授業が難しく感じた。</li> </ul> <p>PCスキルは大学入学時点でも個人差が大きいため、苦手意識を持つ人もできるだけその意識を取り払えるように、講義後のフォローのしかたなどを工夫していきたいと思います。</p>
English Reading Skills II	<p>担当する教員間のコミュニケーションは良好で頻りに情報を共有しているため、シラバス通り授業を進めており、評価ポイントや評価方法も同じである。しかし、学生の指摘にあるように、各教員が出す課題の難易度や提出する頻度等についてクラス間による差がみられた。今後は、課題内容や提出頻度についても情報を密に交換し、クラス間による差をなくしていきたい。</p>
English Self-Expression II	<p>これまでのESE2の大きな問題点は、シラバスに載っていないことを先生がやってしまうことがあることです。そのようなことがないように、全教員の授業評価（生徒のコメントは含まない）をESE2の全教員（教員名を伏せて）に送付し、他の教員の結果を見ることができるようになりました。各担当教員の授業の内容と進め方を統一する必要がありますので、再び担当教員が集まり、確認したいと思います。ついでに授業のマナーについて、履修生全員が授業を平等に参加できる環境を作ることも担当教員と確認させていただきます。ESE2の授業はどんな先生でも同じように提供できるように頑張りたいと思います。</p> <p>何人かがfluencyに向けて、授業に積極的に参加すると、他の学生にモメンタムを与えて良いスパイラルをもたらすと考えられます。文法などをあまり気にしなくても良いから多くを語る、間違いは恥ずかしくないということを刷り込んでいきたい。文法の説明や表現確認は個人で（メールやface-to-face）確認しております。</p>
English for Academic Purposes II	<p>多読の目標語彙数が、多かったため、達成できている学生が少なかった。そのため、今後は、もう少し、達成可能な目標に検討していきたい。また、授業関連のTeamsでの連絡を、適切に行うように気を付けたい。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
Extensive Listening	リスニングが出来るようになることで、英語の表現力は飛躍的に伸びます。なぜか？それはリーディングよりも脳への刷り込み力が強いからである。リスニングは楽しい。コツを憶えることで確実に伸びます。特に日本人は曖昧母音を別の音で理解しているためキャッチすることが出来ない。例えば、miraculous。micraculousは「ミラキュラス」と憶えている。これは敢えて書くならば「ムラキュラス」である。「ム」という曖昧母音である。また音の連結に慣れることもリスニング力を増強させるために不可欠である。これまで知っていた音との違いに「気づく」ことも重要。「気づき」で憶えた音は強く頭に残ります。高校までの受験用の音理解から実用上の音理解に橋渡しができるよう、更に「気づき」の用例を増やし臨んでいきたいと思ひます。新カリキュラムにおいても、どの科目においてもリスニングは関連してくるので、随所で「気づき」の用例を示し、聞き取り力アップに貢献していきたいと思ひます。
中国語Ⅱ	・課題の提出方法は具体的な指示を出します ・授業外の学習時間を増やす工夫もしていきたいです ・グループワークで各グループ班の参加状況を確認するようにします ・両クラスの学生人数のアンバランスを調整します ・中国語の勉強に対する意欲をアップさせるため、「加点制」を含めている工夫をし続けていきたいと思ひます ・使用テキスト以外から（中国語の社会・文化）も様々な学習を取り入れ、学生にとってもっと満足度の高い授業にしていきたいと思ひます。
韓国語Ⅱ	<p><b>【科目運営について】</b> 今年度の韓国語Ⅱは、対面授業で実施され、次年度も基本として対面授業となる可能性が高い。しかし、コロナの影響による感染対策の実施が続き、通常の対面授業に比べ、様々な制限が続くことが予想される。その制限の中でも、授業内容および指導の質が低下しないよう、説明の方法・資料の形・学生への配慮などについて、より学生の立場から工夫していく。</p> <p><b>【授業計画について】</b> 来年度も通常とは異なる制限された学習環境が想定されるため、授業計画および到達目標は、実際の授業において学生全体の理解状況を確認しつつ進められるよう設定する。その際、学生の集中力や興味が持続するよう、簡単明瞭な説明を心掛け、適度なペースで進めるよう、十分に考慮しなければならない。また、教科書の記述だけにこだわらず、必要に応じて学生の理解を助けるべく、紙や動画による補助資料などを積極的に活用しつつ、補足・解説を加える。語学の勉強において、語彙・文法の理解は無論大事であるが、その背景にある言語文化の理解も大事であることから、日本語との対比およびそれに関わる韓国文化や歴史の紹介・説明も併行して行う。さらに、単なる知識の伝達という一方向のものではなく、学生自らが授業に対し興味を抱き、自然に溶け込んでいけるよう、常に改善していく必要がある。さらに、学生に対して、上からではなく、同じ目線から教員自ら常にフレンドリーかつ丁寧に学生に接し、時にはその場を和ませつつ、「真剣さの中にも遊び心のある授業」の実施を目指すことで、充実した授業に仕上げていくことを今後も目指していく。</p> <p><b>【事前・事後学修について】</b> 事前学修用として次回の授業に関する「補助資料」、事後学修用としてその回の授業に関する質問・感想への回答の「コメントペーパーへの回答」の2種類の資料を毎週配信することで、学習内容への理解を助ける。なお、適切に課題を配布し、可能な限り学生1人1人への添削指導を行うことで、学生自らが問題点について正確に認識し、無事に正解にたどり着けるよう支援していく。</p>
Global StudiesⅡ	<p>Beginnning next year this class will end in its present form. I will begin teaching a class called Global Business. Students who take this class will be studying with Professor Yamamoto about Japan from an international perspective. I have enjoyed teaching both Global Studies I and II for many years. I would like to thank all of the students who took the class over the years. I learned a great deal from teaching this class. I can only hope that the class left a good impression on students in terms of their understanding of the world and its many problems.</p> <p>来年度から、この授業は現在の形で終了します。「グローバル・ビジネス」という授業を始めます。このクラスを履修する学生は、国際的な視点から日本について山本先生と一緒に勉強することになります。グローバル・スタディーズⅠとⅡを長年にわたって教えてきて、とても楽しかったです。長年にわたり、この授業を受講してくれた学生たちに感謝したい。このクラスを教えることで、私は非常に多くのことを学びました。この授業が、世界とその多くの問題に対する理解という点で、学生たちに良い印象を残してくれたことを願うばかりです。</p>
日本の歴史と文化（食産）	<p>○授業計画や内容・教材等について、授業アンケートの結果では数値的には概ね肯定的に評価されているようですので、今後も大枠は維持していきたいと思ひます。</p> <p>○授業アンケートのコメントでは（少ないですが）、歴史に対する苦手意識を克服し、「歴史を思考する」という目標に達し得ている方もいるようです。履修者みなさんの努力の結果なので、今後履修する皆さんにも引き継がれることを期待します。</p> <p>○毎回のアンケートに対するフィードバックについては、他の履修者の思考の確認など、講義内容以外の学びに役立っているようですので、今後も継続していきたいと思ひます。一方で、このフィードバック時間が長いと感じている方もいるようなので、フィードバックに割く時間については検討をしたいと思ひます。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
世界の歴史と文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッションの時間をもう少し長くとり、学生同士のダイアログやディスカッションを深められるよう心がける。</li> <li>・読書好きの学生と苦手の学生と2極に分かれていたため、本を読むかビデオ視聴か選択できるようにしていたが、今後も引き続き課題の出し方を考えていきたい。</li> </ul>
東北の歴史と文化	<p>○授業計画や内容・教材等について、授業アンケートの結果では数値的な改善が見られ、概ね肯定的に評価されているようですので、今後も大枠は維持していきたいと思います。</p> <p>○授業アンケートのコメントに記された範囲では、身近な地域から東北の歴史を探る講義前半回の方に、みなさんの関心が集まっており、また一方で、東北から日本の捉え直しを図る後半回についても、視点の捉え方の獲得などの点で有益だったとのコメントが寄せられていますので、授業の大枠を維持しつつ、今後も内容の充実を図りたいと思います。</p>
現代社会と哲学（食産）	<p>広く浅く学ぶのであれば、市販の解説書を読めば十分です。この授業では、ひとつのテーマに関して、学士に必要とされる知識は質・量ともにこれくらいということも学習してもらいたいと思っております。なお、高校で「倫理」を選択しなかったがゆえに、この授業についてこれなかった人は、自分で勉強しなければなりません。また、質問も補講も随時受け付けていることは申し上げたかと存じます。出席確認のメールに質問を書いてくれた学生には、ほぼ即答、遅くても2日以内には回答を差し上げていると思いますが、このシステムを利用したことはありますか。積極的な参加を希望します。</p>
人と宗教（食産）	<p>概ね肯定的に受け容れてもらったように思います。資料の量が多いかもしれませんが、電子化されているので邪魔にはならないでしょう。資料の量が多くなるのは、私の記憶力が衰えてきていることに加え、授業をサボった学生が授業でどこを取り上げたか分からなくなり、自分で一から資料を読まないレポートが作成できない、という効果を狙ったことです。しかし、読めば分かるレベルの資料を中心にプリントは作成してあります。</p>
心理学（食産）	<p>メモリアルホールという授業環境としては良いとはいえない場所だったので不便をかけたと思います。新型コロナウイルス感染症が収まり、通常の教室に戻れたらよいと思います。音響も必ずしもよくなく、スクリーンにPC画面を提示しての授業でした。受講生の数に比べて大きい講義スペースでしたが、後ろにしか着席していませんでした。良くない授業環境でしたが、各自できる範囲で工夫してもらえればよかったですと思います。</p> <p>何の役に立つかわからなかった、日常生活に生かせるような内容を期待するといった感想がありました。日常生活での例を挙げて説明していたと思います。講義目標は、心理学的な見方や考え方の理解です。それをどう生かすかの前の段階の内容であることを理解してください。日常生活にどう生かすか、生かせるかを考えるのが、授業の復習だと考えます。</p>
現代社会の諸相	<p>「出席の取り方が適当すぎて、真面目に授業に参加していることが馬鹿馬鹿しくなってしまった。この講義のために登校した日も「今日は出席を取りません」と言われてしまい、出席の取り方の甘さに驚いた。実際にこの講義を履修している人で何度もこの授業をさぼり、出席だけ出している人がいることも知っている。この出席の取り方の適当さではそのような人が出てくるのも仕方がないのではないかと思える。もう少し出席の取り方を改善す」（原文ママ）というコメントがあったが、その一方で「出席確認、課題提出が容易で受講するにあたって問題になる部分なかった」（原文ママ）という意見もあったことを踏まえ、現状を維持したい。また、出席をとらなかったのは、レポートの提出をもって代える、ということではなかったかと記憶しているが、出席が自己目的化している学生に自覚を促すため敢えて出席を取らないことも教授法の一環であることに気づかされた。とまれ、顔認証システムを導入しない限り、抜け道を見つけ出されて、出席の補足率はいまと大差ないものとなることが予想される。同システムの導入を関係方面に働きかけたい。</p>
憲法	<p><b>【良かった点についての自由記載】</b>（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解説、レジュメともに非常にわかりやすく、質の高い学びをすることができた。</li> </ul> <p>⇒憲法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。</p>
社会と経済	<p>大学の全体平均値よりは概ね高い結果となった。全体平均値との差が小さかった項目について、以下で検討する。「知識、技術等役立、関心」の項目が、平均値との差が小さかった。経済理論はどうしても計算モデルが多くなる点で、関心が高まらない可能性がある。現実の経済ではどのように理解できるかなど、これまで以上に現実と理論との関連を補足するように努めたい。また、「授業計画のわかりやすさ」の項目も平均値との差が小さかった。使用テキストに沿って行っているが、必ずしも数学的に易しい順にはなっていない。難解なところと平易なところの区別をあらかじめ伝えるなどして、授業計画をわかりやすく把握してもらえるように努めたい。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
数理科学（食産）	<p>授業評価アンケートの結果は下記の通り。</p> <p><b>【この授業に関して、良かった点】</b>            ・グラフ理論を知ることができて良かった。            ・板書が丁寧だった点。            →内容的により高度なものを選んでも良い印象をもった。</p> <p><b>【改善したほうがよい点】</b>            コメントは無かった。            →講義のスピードについては例年指摘されているが、今回は指摘が無かったことを改善に成功したかどうか、今後も注視していく。特に引き続きテキストの作成・配布での手当てを行っていく。</p> <p><b>【その他、意見、感想、要望など】</b>            ・自分の興味のわくことが非常に多かった。            →好意的な意見が多く、一応の成果を上げる軌道に乗っていると考える。            5ヵ年2キャンパスでの講義で科目内容が安定してきた本科目と、もう一方の数学系科目「数学概論」と有機的な繋がりを意識したてテキストを作成・配布することで、新カリキュラムにおける発展を企図していく。</p> <p>※今回、アンケートの回答数が少ない印象で、以上が全コメントであった。学生からの意見を取り入れる機会を科目内でも設ける必要を感じている。</p>
生命科学（食産）	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。以下に皆さんからのコメントを記します。</p> <p><b>【良かった点（抜粋）】</b>            ・ディスカッションを行ったことで、様々な視点で物事をとらえたり意見を共有する楽しさを学びました。            ・講義内容と日常との関りが入っていて理解しやすかった。            ・ディスカッションがあることで様々な知識を授業外でも得ることができた。</p> <p><b>【改善した方がよい点】</b>            ・授業のPowerPointをいつでもダウンロードできるようにしてほしい。            →DLの期間を延長します。</p>
環境科学入門	<p>全体として、理解度は高く、学生の評価も悪くなかった。反省点として事前・事後の学習量が少なかったことがあげられる。次年度から、事前事後の学習のための課題を準備したい。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
地球と宇宙	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p><b>【よかった点の自由記載】（抜粋）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすい講義だった。</li> <li>・資料がまとまっていたこと。</li> <li>・興味深い内容が多く、先生の進め方も良かったために面白かった。</li> <li>・録画があったので、わからなかったときにいつでも振り返ることができるのがとてもよかった。講義内容が個人的にとってもおもしろかった。</li> </ul> <p>→ 講義の内容については、引き続き、できるだけ興味関心がわく内容を取り入れていきたいと考えます。講義録画を残すようにしましたが、復習に利用できると好評であったため、引き続き同様の形をとろうと思います。</p> <p><b>【改善したほうがよい点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やや内容が理系寄りであり、苦手な学生にとっては難しい。フランクな部分に専門的な用語を散らばすことで、なにがポイントなのか、どう飲み込めばよいのかがわからない。仰っている内容を頭で想像するのも難しかった。理系的な内容だからなのか、原因についてはわからない。</li> <li>・資料が見にくいことです。</li> </ul> <p>→ 資料（レジュメ）については、できるだけ改善を図っていきたいと思います。講義内容について理解が追いつかない場合は、ぜひ、講義後に質問にきていただければと思います。</p> <p><b>【その他、意見、感想、要望など】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストの形式が難しかった。</li> <li>・わかりやすかったです。</li> </ul> <p>→ 本講義は「暗記したことを答える」のではなく、「理解したことを言語化する」ことを到達目標に挙げています。テスト形式では「理解したことを言語化する力をみること」に重きをおいていますので、持ち込み可に油断することなく、あらかじめ講義で扱われたことを、自分で言語化する訓練を積んでいただきたいと思います。</p>
数学概論（食産）	<p>授業評価アンケートの結果は下記の通り。</p> <p><b>【この授業に関して、良かった点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の立場に立って、授業を行ってくれていたのが、楽しかったです。</li> <li>・三浦先生のテキストがあったことで、授業の流れに沿った復習ができた。</li> </ul> <p>→ テキストを2つ併用した効用が明確に顕れたコメントであるが、これを全履修者へ確実に実感させていくために来年度からは正規テキストの刷新を行う。教授内容、学生の状況とのバランスに対して、クラスの規模と科目特性の観点から十分な成果を得たと判断している。</p> <p><b>【改善したほうがよい点】</b></p> <p>コメントは無かった。</p> <p>→ 例年あった改善点（早口など）については対応が功を奏していると判断したいが、今後もその効果が継続するよう努めて行く。</p> <p><b>【その他、意見、感想、要望など】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変わった視点で問題にあたるのが楽しかった。</li> </ul> <p>→ こちらの科目設計の意図に合った評価を得られた点は良かったと思う。今後も科目設計の高度化と合わせて取り組みたい。</p> <p>5ヵ年2キャンパスでの講義で科目内容が安定してきた本科目と、もう一方の数学系科目「数理科学」と有機的な繋がりを意識したてテキストを作成・配布することで、新カリキュラムにおける発展を企図していく。</p> <p>※今回、アンケートの回答数が少ない印象で、以上が全コメントであった。学生からの意見を取り入れる機会を科目内でも設ける必要を感じている。</p>
物理概論（食産）	<p>一方的な講義にならないように、学生同士のディスカッションを導入したいが、コロナ禍にあってなかなか困難であった。今後は、方法を工夫しながら導入していきたい。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
基礎統計学（基礎統計学Ⅱ）	<p>○この授業に関してよかった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、あれだけ多くの質問に丁寧にすべて答えていてびっくりした。</li> <li>・毎回の講義後に、PDFで質問への全回答が戻ってきて、こんな講義他には無い。</li> <li>・ものすごく分かりやすく丁寧な講義であった。</li> <li>・授業の講義の資料などを配布してくれたため、テスト対策が取りやすかった。</li> <li>・先生がexcelシート型を作ってくれて、理解が進んだ。</li> <li>・教員が親身になってくれてすごくわかりやすかった。</li> <li>・とてもわかりやすい説明で苦手だった統計学でしたが、頑張ることができました。ありがとうございました。</li> </ul> <p>（教員からのメッセージ）引き続き、みなさんの理解度を確認しながら講義をすすめていくよう意識していきたいと思います。PDFによる質問返答、Excelシート配付による講義形式、および講義録画の保存は好評のようですので、次年度も継続したいと思います。</p> <p>○改善した方がよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明が多く、ついていくことが大変でした。もう少し自分たちで計算する時間があればもっと理解を深められたと思います。</li> <li>・内容が煩雑で分かりにくかった点。</li> </ul> <p>（教員からのメッセージ）講義内容については、よりわかりやすく伝えられるように工夫していきたいと思います。</p> <p>○その他、意見、感想、要望など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学の面白みを知ることができた。</li> <li>・頑張れば間違いなく身につく講義だった。</li> <li>・もっと学生を正當に評価してください。</li> <li>・映像にも残してください、復習ができてとても良かったです。</li> </ul> <p>（教員からのメッセージ）成績評価は厳密にしているつもりですが、もし評価に不満などがある場合は、ぜひ詳細を聞きにきてください。どこに問題があったのかを把握することが今後の学習の第一歩だと思います。講義録画については、好評のようですので、可能であれば次年度も継続したいと思います。</p>
健康科学（食産）	<p>自由記述の主なものは以下のとおりであった。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のあることが学べた点。</li> <li>・要点がとても分かりやすく、簡潔で、テストや授業内容の指示が明確で、親切だった点。</li> <li>・それぞれの先生に専門性があり、それぞれ別の観点から学べた点。</li> <li>・アウトプットの機会、演習形式の学習があった点。</li> <li>・質問にしっかり答えてもらった点。</li> <li>・分野ごとにテストが分かれていた点。</li> <li>・健康という重要かつ身近なトピックが扱われて、日常生活に役立つ学びがあった点。</li> <li>・資料がわかりやすかった点。</li> </ul> <p>改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し参加型の授業にしてほしい点。</li> <li>・要点を整理してほしい点。</li> </ul> <p>本科目は、講義形式を基本として、一方向型にならないよう留意し、双方向型の学習や演習課題等の学習を取り入れている。これらの結果として、「アウトプットの機会」「演習形式の学習」「質問にしっかり答えてもらった」「もう少し参加型の授業にしてほしい」等の意見が挙がったと考えている。引き続き、各回の授業内容の教授・学習方法を点検し、必要な改善を行う。また、「要点を整理してほしい」という要望については、「要点がわかりやすい」等の意見もあることから、授業回のトピックや担当教員によってわかりやすさに差異があると考えられる。引き続き、各回の授業内容を点検し、改善を行う。事前・事後学修については、各回の授業でより具体的な教示や声かけを行う。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（基盤教育群）

科目名	授業改善計画
スポーツ科学（食産）	<p>・本科目は、シラバスの内容をベースに、レスポンスカードの内容等からみなさんの興味関心度の高い話題も柔軟に取り入れるようにしていますが、授業がきっかけで健康づくりの意識が高まったり、個別指導（遠隔）を受けたりする方もおられ、科目担当者としてとても嬉しく思っています。「分かりやすい」という肯定的なコメントもいただきましたが、この分野は次々と新しい理論や技術などが出てきますので、それらの情報等も自分なりにリサーチしつつ（わかりにくいことは遠慮なくお尋ねいただき）、今後も一緒に健康づくりができることを楽しみにしています。</p>
スポーツ実技（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。</p> <p>今期は感染症対策のため制限される活動も多々ありましたが、みなさんのご協力のおかげでほぼシラバス通り（初回ガイダンスでの説明通り）に進めることができました。また、『良かった点』として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分一人が輝くのではなく、みんなでやる事で協調性が生まれていいなと感じた」</li> <li>・「スポーツを通して体の健康について学ぶことができ、今までなら気にしていなかったことにも気づくことができた」</li> </ul> <p>という意見がありました。選択肢の回答と合わせると、競技スポーツが苦手でも、工夫次第で個人でもグループでも無理なく、楽しくエクササイズできることを多くの方に理解してもらえたようで嬉しく思います。授業は終了しましたが、今後も生活の中に定期的な運動を取り入れつつ、食事、睡眠などとの関連も踏まえた「今の自分に最適な健康づくり」に取り組んでみてください。</p> <p>一方、『改善したほうがよい点』として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「バドミントンとバレーの回数を増やしてほしい」</li> </ul> <p>という意見がありました。たしかに、得意な競技は苦手な競技よりもスキルに余裕がある分、楽しさは大きくなりやすいので、スポーツを楽しむという点ではとても重要なことです。ただ、本科目は回数も限られていますので、シラバス等でも説明しているように、本学体育館において実施可能、かつ運動要素・運動量等を考慮して種目・回数を設定しています。年度によっては受講生の運動能力や体力等に合わせ、各種目の回数、ルール等を変更する場合がありますが、みなさんの年齢以降に低下しやすい体力要素や基本動作に対し、複合的で最適な働きかけとなるよう、様々な種目をバランスよく行ってほしいと思っています。</p>
体を動かす楽しみ	<p>・感染症対策のため制限される活動も多々ありましたが、授業評価アンケートでは『良かった点』として、「コロナ下だったが感染対策がしっかりとられており、授業を受けやすい環境が整っていた。」「経験したことのないスポーツをたくさん経験することができ、楽しかった。スポーツの視野が広がった。」「運動が苦手な人も得意な人も自分の体や体調に合わせて運動できるような雰囲気があってよかった。」。等の意見がありました。また、毎回提出してもらったレスポンスシート（Forms）の内容や授業の様子等から、一定の満足度、学習成果等が得られたものと思われま。特に、遊び要素のあるレクリエーション活動（アクティビティ）を通じて、運動能力レベルや障がいの有無などにかかわらず、工夫次第で誰でも一緒に楽しめることを多くの方に実感してもらえたことは科目担当者として嬉しく思っています。本科目の終了後も、運動の形式にとらわれず、オリジナルダンス・体操の振付等の経験を活かし、時には自分なりのアレンジを加えながら運動を習慣化し、積極的に健康づくりに取り組んでもらいたいと考えています。</p> <p>・一方、『改善したほうがよい点』として、「ダンス風エクササイズが嫌い」という意見がありました。この点については、みなさんの今後の健康づくり（運動）において重要度が極めて高い運動要素（基礎的運動パターン）の一つとして、“リズム（に合わせること）”があげられますので、苦手な方が少しでも楽しめるよう、次年度以降も様々なメニューを工夫していきたいと思えます。授業で行った内容（種目）以外にも、自分なりに楽しむ方法はたくさんありますので、いつでもお声がけください。</p> <p>また、『その他』として、「コロナ禍で先が不透明なのは承知しているが、授業計画をしっかりと提示して欲しかった。」という意見がありました。本科目はシラバスに記載しているように安全最優先で運営しますので、みなさんの健康状態やその日の環境等に合わせ、種目やルール等を変更しなくてはならない場合があります。今期はほぼシラバス通りの計画で進めることができましたが、次年度以降は（感染状況等を踏まえつつ可能な範囲で）より丁寧に次回の予定等、授業計画に関する情報を提供するようにしたいと思います。</p>
コミュニティ・プランナー実践論	<p>・コミュニティ・プランナー（CP）科目は、CP概論及び演習（2年前期）・CP実践論（2年前期）・CPFW演習（3年前期）で構成され、本講義は中間に位置する。2021年度における講義は、新型コロナウイルス感染症の影響がありつつも、実践者によるレクチャー、学外でのサイトビジット、グループワークを実施することができ、省略することなく到達目標を達成することができた。次年度以降も上記のプロセスを基盤として講義計画を設計する。</p> <p>・本講義では、連携する自治体等との綿密な関係性が求められており、次年度もこれまで通りの協力関係が得られるよう、講義準備に努めたい。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（看護）

科目名	授業改善計画
臨床心理学	<p>自由記述の主なものは以下のとおりです。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ slido（筆者注：オーディエンス・レスポンス・システムの名称）を用いた双方向型の講義形式だった点。</li> <li>・ 質問もしやすく、他の生徒の考えも知ることができ楽しい点。</li> <li>・ 実際に演習して学ぶ機会があってよかった点。</li> <li>・ 今後の学びに繋がる学びがあった点。</li> <li>・ 資料がわかりやすく、また、それまでのまとめスライドがまとめられていて復習しやすかった点。</li> <li>・ 重い内容であっても授業方法を工夫していた点。生徒の健康面についても配慮されており、授業が受けやすい環境だった点。</li> <li>・ 教員が親しみやすい点。</li> </ul> <p>改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義資料をもう少し早く出してほしい。筆記テストかレポートどちらかがよい。</li> </ul>
人間関係論	<p>理解しやすいよう、できるだけ具体例を挙げて説明するよう心がけています。</p> <p>1年次の学生ということで、看護業務についてイメージできるようにしています。</p> <p>人間関係（対人関係）についての知識やスキルは、看護業務だけでなく、日常生活の中でも必要なものです。看護業務との関係については意識して講義していますが、具体的なイメージが持てるよう事例等の工夫を続けていきます。</p> <p>レスポンスカードに書かれた疑問点については、すべて説明することは時間的にできませんが、理解にとって重要なことについては次回の講義の始まりのところで復習も兼ねて説明しています。</p>
形態機能学Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりやすかった</li> <li>・ 看護に必要な点を小テストを用いながら学ぶことが出来た</li> <li>・ 毎回テストがあったため、内容が理解しやすかった</li> <li>・ 資料が難しく感じ、また小テストでは資料やネットで調べても答えが分からない時があったため最終的には答えを出してほしい。</li> </ul> <p>回答：</p> <p>小テストの答えをすぐ出した場合、答えだけを暗記してそのプロセスを十分に掘り下げず、また全く勉強しない学生が思いの外いるので、主体的に勉強してもらうためにできるだけ出さないこととしています。主体的に勉強してもらうことを踏まえながら何処かの段階では「答え」を公開することも今後考慮します。また、わからない場合、質問したり友達と議論したりしてください。質問しにくる学生が非常に少ないのが残念です。「わからない」ままにすることは主体的な勉強を放棄していることです。</p>
薬理学	<p>出席システム。出席していない人にキーワードを送っている人が見られる。</p> <p>回答：対応策を考えたいと思います。</p> <p>わかりやすかった</p> <p>毎回テストをしていたので、内容が理解しやすかった</p> <p>資料がわかりにくい。</p> <p>90分で説明しきれない盛りだくさんな内容だという印象でした。</p> <p>回答：少ない時間内に国家試験や卒業後に必要な最低限の情報を説明したいと思います。資料の中身が濃いのは、単に重要な事柄を暗記することなくその背景も十分にリカして欲しいからです。資料枚数は増えますが、ダイジェストと補足情報に分類するなど対応したいと思います。</p>



## 令和3年度後期 授業改善計画（看護）

科目名	授業改善計画
栄養学	医療に関わる専門的な内容を扱っており、生物、化学、形態機能学等の基礎知識とつなげて学修をすることが重要である。授業後アンケートでは、これまでの基礎知識をもって深く理解でき、栄養学への関心を高めた学生がいた。しかし、専門的な内容がよくわからないと感じた学生もいた。授業後の復習ポイントを示し、内容の理解を深められるよう改善する。
公衆衛生学	この授業に関して、良かった点 外部の講師による授業があることにより、病院だけではなく様々な場所で看護師は必要とされていることが分かった。 実際に働いている人から講義を受けたことが貴重だと思った →実際の職業に直結することは評価されることが分かった。今後は職業に関わる部分だけでなく、背景にある知識の教授にも力を入れたい。
疫学Ⅰ	この授業に関して、良かった点 教科書が面白く読みやすかった。 →究極的には教科書の内容を理解できれば講義はそれほど重要ではないので、読みやすい教科書は重要だと感じた。
疫学Ⅱ	この授業に関して、良かった点 2回の小テストの勉強がそのまま国試勉強につながったため、国試勉強で忙しい時期でも役に立って良かった。 →4年生の後期なので、国家試験対策に意識が向いてしまうのは仕方がなく、そのための内容も講義に必要であることは承知している。一方で、その先の職業人としての活躍を考えるとそれだけでないさらなる高度な講義内容も必要だと感じていて、国試対策とのバランスを考えることとしたい。
疾病論Ⅲ	学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。
代替療法（統合医療）	看護学群での科目のすべてと関連する統合的な科目である。演習や体験を多く取り入れることで、補完代替療法の効果について、実感をもって、特徴を理解できていた。漢方については、対面授業をすることで、昨年よりも、臨床医と治療と生活をふまえたディスカッションが活発となり、看護への活用を検討できた。
看護情報学Ⅱ	「情報学＝PCの使い方」という考えを持つ学生は多く、そのような学生の希望を考慮して講義を展開するとPCのスキルに関する学習が多くなるが、特定のスキル練習が中心となってしまう。その結果、特定のアプリを利用している間は良いが、それ以外のアプリや機械が出てきたときに利用できなくなってしまうことを危惧する。特定のアプリに依存するだけでなく、情報機器の仕組みなど普遍的な知識やスキルの教授を増やすべく、検討を進めたい。
看護実践論	・授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思います。自由記述でも、講義資料や説明のわかりやすさ、教員の指導についてよいコメントをいただき、この点については継続していくようにします。 ・ジグソー法学習については、よかったという意見と改善したほうがよい意見の両方がありました。この点については、ジグソー法学習を取り入れる目的やねらいを明確に伝えるようにし、互いに学び合う時間を増やすように改善していきます。 ・技術演習の時間については、注射法や採血の技術は1回の演習で身につくものではありません。演習目標は技術の修得ではなく、授業で学んだ知識の理解を深め、実践と統合することです。演習の到達目標も明確に伝えるような要項の作成や説明をするなど改善していきます。
ライフステージ看護学概論Ⅰ	小児期、成人期、老年期の各ステージにある人の健康の特徴と、看護の関わり方の視点について、講義を行った。その後、老年期までのステージを経験した方々(泉区住民の方々)と、人生と健康について話し合い、交流を行い、ライフステージ各期における個人や家族の健康に関するニーズについてレポートとしてまとめた。概ねの学生は、看護学の立場で、ライフステージの特徴を理解し、人を多角的に捉えることについて、学修できた。 授業評価での記述意見には、 「各ライフステージごとに担当教員が変わることについて、専門の授業が分かりやすく、よかった(5件)」「高齢者の方との交流会では実際にお話を聞いて良い機会だった(2件)」の意見がある一方で、「出席の取り方やテストの方法、課題の提出方法が異なり、戸惑うことがあったので、統一してほしい(2件)」「電子教科書が使にくい(2件)」との改善が必要な意見があった。 今後、教員ごとの専門領域の内容、高齢者との交流を継続して充実をはかる。授業運営における出席確認、課題提出方法は、混乱しないよう統一を図る。

## 令和3年度後期 授業改善計画（看護）

科目名	授業改善計画
地域看護学概論	「授業マナー遵守への配慮」「授業計画のわかりやすさ」「目標達成できる内容」「教材と説明の適切さ」「学生自身の授業目標到達度」は平均よりも高かった。自由記述で、分かりやすい、聞いていて楽しい授業だった等、分かりやすさと関心を持ってたという記述があり、また保健師についての講義についてもためになったという意見があった。一方、「知識、技術等役立、関心」「授業の要点・内容の整理」は平均よりも低く、特に保健師に焦点をあてた授業（1回のみ）について、保健師に興味がない人にとってはつまらなかったという意見があった（1名）。保健師もまた看護職であり、保健師志望でなくとも同じ看護職への関心を持つこと、保健師活動の内容も含めて教授する地域看護学の重要性について強調していきたい。
家族看護論	劇づくりを通じたグループワークにより、家族の状況などへの理解が深まったという意見がありました。実際に劇を作り演じることで、家族の苦悩や家族の中でのダイナミクスについて学びを深めることが出来たのではないかと思います。ただ、リハーサルの時間が少なかったという意見がありましたので、グループワークの時間をもう少し増やすように今後はスケジュールしたいと思います。また、グループワークの際の個別の評価基準が不明瞭であったというご指摘がありましたので、評価の仕方については、今後見直しを行い、改善していきます。
災害活動論	本科目は選択科目で、災害看護プログラムで一番最初に学ぶ専門科目であり、災害看護に関心の高い学生が履修していると想定しています。実際に授業評価の結果では、全体的に各評価項目は、授業全体の平均値を概ね5～10点前後上回る得点となっており、意欲の高さも窺われました。評価項目で気になる点として、1点のみ、授業外の学習時間が0.76と授業全体の平均値の1.51の約半分の時間となっています。災害看護プログラムでは、自主的な学修活動もプログラムに関連した活動として行っているため、関連した学習活動は、もう少し行われているのではないかと思います。課外活動と結び付けながら、自己学習への取り組みを促進されるよう助言や工夫を図っていきたく考えています。また、演習に関しては、コロナ禍で実施方法を変更したのもありましたが、オンデマンドでの動画配信や、課題学習等、これからの効果的な学習方法につながるヒントもありました。これまでに作成した教材の活用も含めて、授業の展開方法の見直しを行いたいと思います。
災害看護支援論	本科目の回答平均値は大学全講義の平均値に比べると、「授業マナー遵守への配慮」以外は上回っており、履修登録者の高い達成感や満足感が得られたことがわかる。今年度は例年と同様にゲスト講師を招聘したが、災害直後の被災地での活動経験を持つ災害看護の専門家を招き、対面授業で教授したため、「知識や技術の習得・知的関心の喚起」の向上につながったと考えられる。講義テーマに関して、前期の救急・災害看護論と継続性を持たせ、前期の授業で既習の知識を演習などを通して理解を深め、実践力を高めることを目指した。また、今年度のフィールドワークは令和元年台風19号の被災地域でもある丸森町で被災者でもあり地域の防災活動に取り組む民生委員に現地での講話を依頼した。また、被災時の活動拠点でもある病院・避難所・仮設住宅での活動の実際について、活動経験のある看護師や保健師、職員から被災時の活動について講話いただき、グループワークを通して学びを深めることができた。現地での活動は新型コロナウイルス感染症拡大により、時間が限られていたが、得られた経験は印象深く、達成感や満足感が得られたと推測する。また、Microsoft Teamsを用いて事前に授業内容を伝え、事前学習・事後学習時間を確保できるように努めたが、アンケート結果には反映されなかった。事後レポート課題の内容を確認すると2時間以上の事前事後学習時間を確保していることが推察されるため、次年度以降は事前学習・事後学習として意識的に取り組めるように周知していくこととする。また、今年度は外部講師にDMATに属する看護師を加えたことで履修登録者の満足感が高い結果となったため、次年度以降、災害時の精神医療活動であるDPATに属する看護師を外部講師として招いて、災害急性期から慢性期までの看護活動について教授できるように改善していくこととする。
治療看護論	すべての質問項目で平均値を上回り、履修生の高い達成感や満足感が得られた。教員も、選択科目でもあり、履修した学生の興味・関心の高さや、課題への取組、回答内容の質の良好さを認識できていた。本授業は、DVD教材やエピソード、事例などを効果的に活用して意見交換したり、事後課題も講義内での意見交換をふまえて考えを整理する内容としていた。そのことについて、自由記述では、「事後課題で毎回の授業を自分で振り返りができて良かった」「毎回課題をよく考えて提出していたが、自分の考えに足りないところをフィードバックしてくれたり評価してもらえた」など、事後課題の内容設定とフィードバックの返却によって効果的に学修を進めてもらえていたことは評価できる。特に今年度は、履修者数が少なかったことから、教員も丁寧なフィードバックが可能であった。これらの成果から、「グループワークを通して治療看護の役割を考えることができた」「後期の講義の中で最も楽しんで学習でき知識の糧になった」「講義で具体的なことを学び、他学生と協働することで思考を深めることができ、看護への興味・関心を高められた」という評価を受けることができたと考えている。本科目は、2022年度新カリキュラムでは閉講となり、次年度が最終開講年となるが、履修生の学習ニーズを捉えながら、学生と共に協働して学びを重ね、看護の魅力を考えられる授業にしたい。
看護援助技術論Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思います。自由記述でも、教員の丁寧な指導や事前事後課題についてよいコメントをいただき、この点については継続していくようにします。</li> <li>・一方では、演習時の教員の関りについて不足しているとのコメントもありました。この点については、演習前に教員間で指導のポイントや指導方法について検討して教員による指導に差が生じないようにし、受講する学生が演習目標を達成することができるよう改善していきます。</li> </ul>

## 令和3年度後期 授業改善計画（看護）

科目名	授業改善計画
母性看護援助論Ⅰ	<p>母性看護援助論Ⅰは、妊娠中の女性と胎児、家族の健康支援について学ぶ科目でした。当科目では、全ての項目について全授業の平均値を上回っており、皆さんが熱心に当科目に取り組んだことが見て取れました。特に「知識や技術の習得・知的好奇心の喚起」の項目は31.818ポイントで、全科目の平均値（24.375）を大きく超える高得点が得られました。当科目が特に重きを置くDPは「知識・技術」ですので、ねらい通りに皆さんが学ぶことができたのではないかと嬉しく思います。自由記載欄には、「資料があることでより理解が深まった」「毎回の資料が丁寧でわかりやすかった」といった意見がみられ、授業資料が特に効果的な学びにつながっていたことが窺えます。</p> <p>一方で、各項目をより細かくみますと、「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」の項目が他の項目に比べて相対的に低くなっていました。自由記載欄には「教科書と資料が飛び飛びで忙しく、講義に集中しにくかった」「スライドを写して、どこを話しているのか分かるようにしていただきたいです」といった意見が聞かれています。皆さんが講義にできるだけ集中できるように、今どの資料を使って何について説明しているのかを、より分かりやすく整理しながら授業をすることが大切であると考えました。今後はそのように工夫して授業を展開していきたいと思ひます。</p> <p>さらに、授業外の学習時間の平均値が、全授業の平均値をやや下回りました。授業内で問題が解決した部分が大きかったのかもしれませんが、知識の定着をより促すためには、授業外でも予習・復習に取り組めるような工夫が必要かもしれません。これも次年度以降、検討して進めて参ります。</p>
小児看護援助論Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き講義，事前・事後学修ならびに演習の内容や方法の検討を重ね，学生のみなさんの小児看護学の理解の促進につながるよう工夫する。</li> <li>・ルーブリックの見直しを行い，学生のみなさんが適切に授業到達度の評価ができるよう工夫をする。</li> </ul>
精神看護援助論Ⅰ	<p>小テストの実施によって、毎回復習になったという意見がありましたので、継続していきたいと思ひます。ただ、小テストの結果（どこが間違っただのか等）が分からなかったというご指摘がありましたので、今後は、WebClassの使い方を教員自身が再度確認し、小テストの後に、解答を確認できるようにWebclass上での設定をしていきます。</p>
在宅看護援助論Ⅰ	<p>基本的な知識としての定着が求められる学習内容は、ワークシートで授業の事前課題・事後課題で自己学習に取り組んでももらいました。教科書を中心とした内容でしたが、大事な点がわかった等の皆さんからの意見もあり、ワークシートを自己学習として効果的に活用し、理解に結びつけられていたことが分かり良かったと思ひます。毎回の課題に取り組みながら、知識の修得という点では到達度に達していたと思ひますが、やはり、グループディスカッションの機会は減らさざるを得ませんでした。グループ活動が難しい場合は、授業の中でも、皆さんの意見を紹介したりしながら、在宅看護に関わる多様性の理解を深められるよう、工夫したいと思ひます。</p>
公衆衛生看護マネジメント	<p>「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」のみが平均値よりも低かった。外部講師の授業も多い科目であるため、この改善が難し点もあるが、反面「外部講師による、それぞれの分野での実践者からより具体的な話を聞くことができて良かった」という自由記述もあることから、わかり難い点は担当教員で補えるように工夫していきたい。</p>
養護概説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭教育課程の学生が、2年後期に到達できる目標であるのか、目標到達に相応しい授業計画・内容であるのか見直し調整する必要がある。</li> <li>・授業マナー遵守への配慮については、授業後のリアクションペーパーから、学生のニーズを把握する工夫を続ける。</li> <li>・事前事後学修のさらなる充実に向けて課題内容を工夫する。</li> </ul>
教職実践演習（養護教諭）	<p>養護教諭になるための学習の総まとめの位置付けになる科目です。</p> <p>これまで学んできた教職科目や養護に関する科目についての知識と、養護実習での経験を結びつけ、養護教諭としてどのような視点で子どもたちを育てていくのか、どのような部分に知識や経験の不足があるのかなど、受講学生一人ひとりが再確認していくことがこの演習のねらいになります。</p> <p>受講学生それぞれが養護実習で経験してきたことを共有し、養護実習を通してさらに深めたいと思った部分や不足していると感じた部分を補完していくことができる演習であるよう、今後とも受講学生のニーズに沿った演習展開をしていきたいと思ひます。</p>
教育課程論	<p>受講者が授業計画と本授業の学修の見通し及び到達目標との関連が意識できるように、①最終試験（レポート）の段階で何を理解し、他者に説明することができるようになっていなければならないか、を意識的に説明していくとともに②事前・事後学修の方法についてレクチャーを行いたい。</p> <p>なお、本授業で中心的に取り扱う新学習指導要領や近年の教育課程編成をめぐる課題については、養護教諭志望の学生たちにとって他人事になりやすい。将来教職に携わる一人としての学習の意義について実感できるように授業改善を進める。</p>
教育相談の基礎と方法	<p>複雑に要因が絡み合っただ生じる問題について扱っているため、ポイントを絞ることで問題が単純化されてしまう危険性があるため、ポイントを絞った説明が少し難しいところがあります。</p> <p>レスポンスカードをFormsにしたことで、復習の機会になったようです。</p> <p>講義内で疑問に思っただことなどを把握でき、次回の授業の最初に復習も兼ねて疑問点についても説明を行いました。うまく学修の機会になったようなので今後も続けていきたいと思ひます。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（事業構想）

科目名	授業改善計画
事業構想学概論	・振り返りレポートについて、口頭でポイントなどを説明していたが、そのポイントを踏まえていない回答も多かったことから、次年度はスライドにも明示して、講義内容の理解を深めるよう促したい。
地域活性化とビジネス	本科目は新規カリキュラムにおいても実施されるが、「地域活性化」を視座とする点もより鮮明に打ち出せるような内容に精査していく。
地域社会・産業とデザイン	<p><b>【良かった点（自由意見抜粋）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインについて深く考えることができた。</li> <li>・様々な視点から地域社会・産業とデザインに関して学ぶことができた点。</li> <li>・デザインのさまざまな形を学ぶことができ、自分の視野を広げることができました。とても役に立ちました。</li> <li>・課題が毎週出て大変だったが、結果的に良い学びの機会となった。</li> </ul> <p><b>【改善すべき点（自由意見抜粋）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週レポート課題出すのは負担が大きいです。</li> <li>・先生ごとの課題が若干似たものであったりして同じ課題をしているような感じがした。先生が違う分課題の分量や提出方法が違いく戸惑うことが何度かあった。</li> <li>・内容が煩雑で分かりにくかった点。</li> </ul> <p><b>【来年度の授業改善について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケート結果からは全ての項目において肯定的な評価点が得られており、また全授業平均値程度の評価を確保できている。期末レポートの成績評価結果からも、到達目標に対する学生到達度は良好な状況であると判断する。</li> <li>・当該授業は令和3年度限りの講義であり、令和4年度以降は価値創造デザイン基礎に継承されるが、本講義と同様に複数教員が担当する講義となることから、今回の授業評価をふまえ、講師間でのレベル調整が必要である。</li> </ul>
法学概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトが見づらいとの意見</li> </ul> <p>大教室なので、対面なのでteamsを利用をする等、改善を試みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート時間の確保or資料配布</li> </ul> <p>資料配布より、ノートの方を選択したいので、十分な時間を配慮したい。</p>
経営学概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの結果は、いずれの項目もほぼ全学平均値と同等か、やや上回る水準であった。これは、上述の毎回の「考えてみよう」や、ミニットペーパーの提出とそのフィードバックが奏功したものと考える。継続していきたい。</li> <li>・授業評価アンケートの自由記述では、「配布資料や事例紹介がわかりやすく、レジュメと教科書が相互に補完し合う関係になっていた」「ただ話を聞くだけではなく、自分で考える時間が設けられているところが良かった」「ミニッツペーパーで毎回集中して取り組むことが出来た」などの肯定的な意見があった反面、「スクリーンに資料が映る時間が短く、レジュメの空欄を埋める時間が足りなかった」趣旨の意見も寄せられた。今後は、話すスピードやスライド枚数に留意したい。</li> </ul>
マクロ経済学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関する学生からのアンケートで、「声が小さい」、「字が汚い」との指摘を受けております。次回からは直すようにします。</li> <li>・各講義では、スライドを使って内容を説明してから、理解を深める意味で、板書で演習問題を一緒に解くようにしています。「板書が読みづらい」という意見もありますが、「演習があるので良かった」という意見もあるので、この形で進めていこうと思います。</li> <li>・「雑談が欲しい」という意見を頂きました。あまり、話すのは得意ではないですが、講義におりこみたいと思います。</li> </ul>
社会調査法	一度の説明でわかりづらい部分については、動画を作成し、復習しやすい工夫を行ったところ、概ね高評価であった。今後もこちらは続けていきたい。TAの配置も良好であったため、次年度の講義でも同数をTAを配置したい。

## 令和3年度後期 授業改善計画（事業構想）

科目名	授業改善計画
数理計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題のフィードバックに時間を要したため、早期フィードバックに努めたい。</li> <li>・授業中並びに事後の指導を充実させるため、TAの活用等も含め検討したい。</li> </ul>
キャリア開発Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの結果は、いずれの項目もほぼ全学平均値と同等か、やや下回る水準であった。特に、「学生自身の授業目標到達度」では、本科目の回答平均値と全学平均値との乖離が認められた。これは、上述の事前・事後学習時間の不足に起因するものと考えられる。今後は、適切な予習課題、復習課題を課すこととしたい。</li> </ul>
キャリア開発Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの結果は、いずれの項目もほぼ全学平均値と同等か、やや下回る水準であった。特に、「学生自身の授業目標到達度」では、本科目の回答平均値と全学平均値との乖離が認められた。これは、上述の事前・事後学習時間の不足に起因するものと考えられる。今後は、適切な予習課題、復習課題を課すこととしたい。</li> </ul>
素材と加工	<p>「素材と加工」は主に生活環境デザインコース学生にとっては、建築を中心に素材とその加工法の概念理解については死活的に必須のものである。また、感性情報デザインコース学生にとっても、物理的な環境とのインタフェースデザインを考える際にも素材感というものとそれを生み出す加工法について理解することは、質の高いインタフェースデザインを行う上で必須である。来期は特に後者の理解向上について事前に周知することとする。</p>
経営戦略論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの結果は、いずれの項目もほぼ全学平均値を大きく上回る水準であった。これは、上述の毎回の「考えてみよう」や、ミニットペーパーの提出とそのフィードバックが奏功したものと考える。継続していきたい。</li> <li>・授業評価アンケートの自由記述では、「経営学概論で学んだことが多く出てきたので、理解しやすかった。自分で考える時間を設けていたところが良かった」「ミニッツペーパーにより能動的な学習を促していた」「様々な企業の戦略をもとに、自分でも考えてみる事ができた」などの肯定的な意見があった半面、「スライドを進めるのが早く、板書が追い付かないことがよくあったので、もう少しゆっくりスライドを進めてほしい」趣旨の意見も寄せられた。今後は、話すスピードやスライド枚数に留意したい。</li> </ul>
マーケティング	<p>スライドの展開が早いというコメントもあったが、学生が飽きずに講義を受けることを優先し、多めのスライドで展開が早い講義を実践した。結果、講義の評価は昨年よりも高まったため、今後もスライド多く作成し展開の早い講義を行っていく。</p> <p>※ ただし、その場合メモがとりづらくなるため、携帯でのスライド撮影を許可して講義を行った。</p>
ロジスティクス	<p>授業アンケートの「授業計画のわかりやすさ」「授業の要点・内容の整理」など、すべての項目において、全授業の平均値をわずかに下回っていた。特に「知識や技術の習得・知的関心の喚起」は15.159と低かった。また、いずれの項目においても、最大値と最小値に大きな乖離が見られた。これを改善するため、実例を多く紹介することで、履修生の知的関心を喚起することとする。また、初めて学ぶ分野と思われることから、予習を促すとともに専門用語を丁寧に説明することとする。</p>
マーケティングリサーチ	<p>授業のコンテンツ等については一定の評価を得られており、今後も継続していく。</p> <p>一方、改善点としては、2点ある。</p> <p>1.授業運営 講義連絡、資料展開、出席等、授業の運営について、メール、出席票、Teams等様々な手段で実際されており、一部の学生が混乱している状況が散見された。今後はTeamsに統一し、初回の授業「オリエンテーション」にて、コミュニケーション方法について学生全体へ告知し、その内容を明文化することで、効率的に授業を受講できるようにする。</p> <p>2.事前・事後修学 中間レポート、期末レポートに対する自習が主な事前事後学習であったため、学習時間はさらに学びたい学生のみが行い、その結果、「授業外の学習時間」が積極的に行われていないことが分かった。授業内で行うワーク（ex.インタビューガイドを作る）に対して、事前学習で各自検討する等、小さな課題を各回で設定するように改善する。これにより、講義で学んだ理論を、事前・事後修学によりさらに深化させる機会を提供する。</p>
eビジネス	<p>本科目に使用する教科書を新たに出版しており、それを有効活用する。eビジネスの概念が広がっており、それを理解して自分で考察する力を身につけるために、企業との連携も踏まえて授業運営を進めていく。</p>

# 令和3年度後期 授業改善計画（事業構想）

科目名	授業改善計画
会計学概論	<p>・自学の強化と検定対策                      コロナ禍で、資格講座の閉講されている。                      状況を見て再開し、資格取得のサポートと自学時間の確保につなげたい。</p> <p>・字が小さいとの意見                      大教室での開講である。                      板書では限界があるので、解説のデジタル化を検討したい。</p>
金融論	<p>「授業計画のわかりやすさ」など8つの項目全てにおいて、全授業の平均値を下回る結果が確認されている。これについては、前担当者が企業での実務経験のみに基づいた授業内容を、大学教育とは何かを深慮しないで運営していたことに起因すると推測される。最新の研究を基礎とする大学の専門科目であることを考えると、本年度の担当者は東北大学で経済学の博士号を取得の後、公的機関での調査・研究に携わり、その後、公立大学および私立大学での教員経験も充実しているので、このままでも、これまでよりも高レベル（内容、方法など）の授業実施が期待できる。また、自由記述にある「小話が面白い」「雑談が良い」など、おおよそ真摯な大学教育とは乖離のあるものが「良かった点」として記載されていることには、大いに問題意識を持つものである。本年度の授業では、大学における大学レベルの授業実現を志向して、担当者（非常勤講師）との事前協議に尽力する所存である。</p>
経営組織論	<p>新カリキュラム2年後期科目における、専門領域の最重要基幹科目として、展開科目へ関連する基礎科目として位置づけられる。講義形式について、引き続き、第1回授業以外、対面で実施する。授業内容、評価方法については、基本的な変更を予定していない。基礎理論、基本概念、主要学説の講義以外に、可能な限りの最新理論、事例・事象、教育メソッドを導入し、大学生が本来求められる「知的好奇心」をより喚起して、修学意欲（モチベーション）を喚起し高水準に持続させ、学生自身が主体的に学習行動を選択できるような真摯な授業実施を志向する。第1回授業においては、事前に「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」「評価方法」「評価基準」を配布しており、確認指示したものの一部の学生の準備が整わず、内容説明の繰り返しが発生した。長期的視点からの学問に対する継続的取り組みである「学習メカニズム」の構築の支援、3年後期以降の「就職活動」における理解の支援に際して、これまで以上に考慮をする予定であり、新しいプログラムを設定している。また、事前に「内容を体系化したレジュメを作成する」、事後に「疑問点が解消されたのかを確認する」については、毎回の授業の最初と最後とで、周知徹底していく予定（各3分程度）である。本授業は大学における専門科目であることを周知させ、不見識な態度・発言、逸脱行為、欠席など、学問に対する真摯な取り組みへの逆機能となる事象については、学問への真摯な取り組みを最優先するように一貫した対応を実践するものである。また、「論理的思考力」「文書表現力」のより一層の向上を重視して、最終レポートの評価ウェートを80%のままに維持する。</p>
企業会計	<p>授業評価、及びコメント部分におきまして、想像以上の評価を頂き有難く思っております。一方で、事前学習と事後学習に学生が費やした時間等は割合低い傾向にありますので、今後は、授業内で事前学習と事後学習の意義、更には、具体的にどうすべきかを丁寧に指示するようしていきたいと考えます。</p>
地域資源論	<p>本科目では、地域資源の活用を実践的に学ぶことを主眼におき、活用可能な地域資源の着眼から活用、ブランディングのプロセスを、ワークを交えながら講義している。昨年度の指摘を踏まえて、ワークの部分において出来るだけ実物を用いることで、より実践的な講義展開を可能にすることが出来た。具体的には、宮城県内における地域ブランドの商品作成の案件をケーススタディで取りあげており、アンケート結果から好評であったことが伺える。本講義の時間帯が5限となっており、学生の集中力も減少する時でもあることを考えると、実物を用いたワークは効果的であり、次年度も積極的に導入したい。一方で、事前・事後学修には課題を残しており、学生アンケート結果からも改善の必要性を認識している。ワークシートの導入など、教材の工夫を試みたい。</p>
地域社会学	<p>授業評価アンケートの結果から、映像資料、映像教材等を多用することで理解を深め印象に残りやすく、更にこれらの資料、教材を踏まえて議論を行うことにより、通常の講義形態よりも、より多くの考える機会を与える講義にすることができたことがわかる。また、対面とオンラインのハイブリッドでの講義だったため、チャットにて意見発表の機会を与えることで多くの学生が意見を出し、その内容により他の学生が参考にしたたり新たな考えを導き出す一助になったりもした。なお、ハイブリッド講義に対して学生からは歓迎の声が多数聞かれており、昨今のコロナ情勢を鑑みても、ハイブリッド講義を起用することでより学生の安心感を高めながら講義に集中させやすい環境を整えることが可能であると考えられる。</p> <p>こうした点を踏まえ、次年度以降においては、映像資料や映像教材の論点をより明確にすることにより、学生がより理解しやすい形にするとともに、当該資料および教材に付随した形での説明や解説を講義およびその前後において実施し、講義内で学生に積極的に発言を求めることにより、講義内容のより深い理解を促す形態を検討する予定である。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（事業構想）

科目名	授業改善計画
国土・地域計画	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメがわかりやすかったといった意見に加え、予習課題があることにより各回講義内容で特に注力すべき点がイメージしやすかったとの意見を頂きました。引き続き、国土・地域計画の変遷や手法についてわかりやすい講義を心掛けたいと思います。</li> <li>・小テストの実施により、自動的に復習することができ講義の理解が深まったとの意見を得ています。引き続き、理解度の向上に努めていきたいと考えます。</li> <li>・88名の履修者が一斉に学ぶ講義であるとともに遠隔と対面講義を併用して実施していたため、学生間の理解度にバラつきが生じないよう小テストの実施することで知識の定着度を見ながら講義を進めていました。しかしながら、小テスト、期末テスト、期末レポートの実施については、講義内容を踏まえてより深い理解に繋がるよう今後さらに工夫が必要であると考えます。</li> </ul>
地域分析学	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義説明やスライドがわかりやすかったといった意見に加え、本講義を通じて他の科目において分析技術を活用・実践することができたとの意見を頂きました。引き続き、地域分析の手法についてわかりやすい講義を心掛けたいと思います。</li> <li>・ゲストスピーカーとしてさまざまな機関や団体の方々をお招きして、実際に分析する機会やその作業時間を多く設けたことについて有意義であったとの意見を得ています。引き続き、より実践的な学びと理解を深められるようにしていきたいと考えます。</li> <li>・約120名の履修者が一斉に学ぶ講義であるとともに、遠隔と対面講義を併用して実施していたため、学生間の理解度に対するバラつきは大きいものがあつたと感じています。また、2名の教員が前半と後半に分かれて講義を実施しましたが、その繋がりをわかりやすく示すことで、より深い理解に繋がるよう今後さらに配慮が必要であると考えます。</li> </ul>
都市計画	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明が丁寧でわかりやすかったといった意見を頂きました。引き続き、都市計画における実地調査や演習課題を通じてよりわかりやすい講義を心掛けたいと思います。</li> <li>・小テストの実施が復習となり、記憶への定着へと繋がったとの意見を得ています。引き続き、理解度の向上に努めていきたいと考えます。</li> <li>・90名の履修者が一斉に学ぶ講義であるとともに遠隔と対面講義を併用して実施していたため、学生間の理解度にバラつきが生じないよう小テストの実施することで知識の定着度を見ながら講義を進めていました。今後も学生の理解定着に注意しながら講義を実施していきたいと思います。</li> </ul>
地方自治	<p>今年度は、より一層事業構想としての地域の運営のあり方を検討することのできる講義としたい。</p>
コミュニティ創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義は、地域創生に向けた理論と実践を学ぶ専門科目であり、コミュニティ創造の基礎的な知識を踏まえつつ、外部講師等も導入した事例分析を行いながら、実践的な知を提供できるよう工夫をしていく必要がある。</li> <li>・本講義は、コミュニティの活性化のプランを構築する演習課題を課しており、これらの考察を踏まえて、実社会に活用できるような提案能力を習得していくことを目指していきたい。</li> </ul>
交通計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で説明したことを、自分事として考えてみる機会を増やし、講義内容により関心を持ってもらうとともに、知識としてだけでなく、考え方としての学びを深めるよう工夫したい。</li> </ul>
商法・会社法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学の強化について 期末レポートから、単元ごとのレポートに変更を検討したい。</li> <li>・経営法務としての視点 オムニバス授業で、講師が法務家に偏っているため、経営視点で法務を解説できる講師の招聘を検討したい。</li> </ul>
環境心理・行動学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンドでの講義動画事前視聴と対面での講義を組み合わせた「反転授業」について、授業評価の自由記述では、肯定的な意見がみられる一方で、授業の進め方に対する疑問が挙げられており、学習の仕方などを十分理解されているわけではないことが考えられる。このような形式での受講経験者は少ないと思われるので、反転授業の意義や学習の方法などについて理解を得られるよう、わかりやすく解説することを心がけたい。</li> </ul>
景観工学	<p>これまで得られた学生からの指摘も踏まえて、よりよい講義となるよう吟味していきたい。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（事業構想）

科目名	授業改善計画
構造力学Ⅱ	非常勤講師の権代先生による科目でしたが、限られた時間の中で、履修者の皆さんが権代先生と対話しながら授業内容を理解しようと努力したようすがうかがえました。引き続き同様の科目運営がなされるよう、努めます。
建築一般構造	・全ての項目において、回答平均値が全科目の平均値を下回っている。その要因として、コメントにもある「資料内容や講義内容の量」「スライドの速さ」などが考えられる。各回の講義内容、資料類の提示の仕方などについて検討したい。
施工技術	・全ての項目において、回答平均値が全科目の平均値を下回っている。コメントにもあるような「各回の講義内容や進め方に関する事前説明」など、講義内容を予告することで理解を容易にするような工夫を心がけたい。 ・コメントにあるような実務経験に基づく実践的な内容、動画や教材について評価を得られているので、今後もさらに充実を図りたい。
構造力学演習	・「教材と説明の適切さ」の評価が著しく低く、コメントで「練習問題の解答配布要望」「解き直しの多さ」などが指摘されており、改善を検討したい。
メディアプログラミング	・学生からの改善の要望は特になく、教材や授業の難易度は適切であると考えられることから、細かな修正を加えながら来年度も継続して同レベルの授業を実施する。 ・データ構造とアルゴリズムはプログラミングを行うために本質的に必要な知識であるが、この単元を苦手とする学生が多いことから、説明に使用するコマ数を増やすなどの対応を検討する。
ウェブプログラミング	授業環境について、授業アンケートで演習形式を進めること、適宜質問可能な状態にすることに良い評価があるためその形式を踏襲する。初歩的すぎるという意見もあるため基礎を終えた受講者が発展的内容に着手できるよう配慮する。興味を持って受講できるよう、さまざまな応用事例の紹介等も検討する。
情報構造と可視化	授業の進め方は現状を維持しますが、課題は適宜更新する予定です。特に授業時間外の課題を増します。
感性情報デザイン演習Ⅰ	・授業内容に関する学生からの改善の要望は特になく、教材や授業の難易度は適切であるが、学生毎の個別の理解度や提出課題の質を確認しながら前回の授業の振り返りや個別のフォローを強化する。 ・演習中は必ず全ての練習問題を全員に自力で解く努力をさせた後に、その詳細な解説を丁寧に行っている。これにより、受講者は自分の頭で考える力が身に付き、プログラミングへの理解が深まっているため、引き続きこの方法を取り入れて授業を実施する。 ・演習科目は知識だけでなく技術も修得する授業であることから、授業を聞いて理解した気になるのではなく、「身に付ける」ことが重要であるとする。単元毎の課題の量や質は学生の理解度に応じて適宜調整する。
情報サービスデザインⅡ	「よかった」というポジティブなコメントと「付いていく気が起きない」というネガティブなコメントが同居していた。前期の情報サービスデザインⅠでは基礎を丁寧に指導したので、後期のこの科目ではやや進んだ話題を議論した。それでも、難しい、分量が過大と感じた学生もいたようである。加減が難しいところではあるが、来年度は学生の意見を頻繁に確認し、適切な難易度と分量になるように動的に調整したい。
空間情報コンピューティング	<b>【良かった点（自由意見抜粋）】</b> ・いろいろな技術に触れるので、興味の湧く分野を見つけやすい。 ・様々なソフトウェアに触れることができたので、ITの分野に興味を持つことができました。 <b>【改善すべき点（自由意見抜粋）】</b> ・課題多いです。 <b>【来年度の授業改善について】</b> ・成績評価及び授業評価アンケートの評価点は平均に比べると多くの点で向上しており、授業内容・進め方等については概ね良好な状況にあると考える。また上記の学生意見にも記載されている通り、学生の関心を引き出す面でも成功している。一方、課題が多いとの意見もあるものの、3年生の専門科目の負荷としては適当なレベルにあると考えている。今後も学生がより興味をもち主体的に学ぶことができるように、最新技術に関わる情報提供と演習課題の充実に向けて努めていきたい。



## 令和3年度後期 授業改善計画（事業構想）

科目名	授業改善計画
造形・プロダクトデザイン	意見を真摯にうけとめ計画に反映していきたい。また創作的課題について理解してもらうよう説明を丁寧におこないたい。本授業によりポートフォリオを充実させ目的を達成(クリエイター職内々定)した学生も少なくとも本授業における成果品の利用法についての周知を徹底したい。
生活環境デザイン概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義は、「生活環境デザイン」の分野で学ぶべき幅広い学問や技術について、その入口のみを概観するものであり、各回のテーマ（取り上げる対象や分野など）は様々である。また、それぞれの内容は、本来15回で構成されるものの表面的な部分のみを網羅することになり、散漫な印象を生じることが否めない。各回の冒頭で、主旨や要点、専門科目との関係などを説明することを心掛けたい。</li> <li>・コメントに「配布資料の穴埋めの多さ」「重要事項の識別のわかりづらさ」など指摘されている。事前配布している空欄を設けたパワーポイントの主旨は、事前学習による予習と事後学習での再確認に用いるためであることをシラバスに記載している。また、Teams上で録画もしており、事後学習で活用してほしいことなど、ガイダンスでも資料の使い方について解説し、周知するよう心がけたい。</li> </ul>
生活環境デザイン演習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての専門的な演習であり、短時間で多くの様々な内容に取り組まなければならない、難易度が高いと感じている様子や苦勞が伺えるが、複数の教員とTAで担当しているので、時間外の質問や指導なども含めてきめ細かい対応に力を入れていきたい。</li> <li>・交流棟の製図室やデザインラボなどが整備されてきたので、今後は2年生の演習拠点及び自学自習の場として活用できるよう、さらに環境整備を重ねていきたい。</li> </ul>
生活環境デザイン演習Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象施設・地区の規模も大きく、用途や機能なども複雑で、かなり難易度の設定は高くなっているが、専門科目としての最終段階に位置づけられる演習科目であり、次年度の卒業研究や卒業設計に向けての素地となる内容であることを理解していただきたい。そのようなねらいを十分理解してもらえよう、繰り返し言及するよう心がけたい。</li> <li>・全体でのプレゼンテーションをオンラインで配信することで、多人数の前に出ることが苦手な学生にとって、ハードルが低くなると思われる。今後は対面での個別指導（エスキス）においてもITを活用することで学生が受講しやすくなる方法などを試行したい。</li> </ul>

# 令和3年度後期 授業改善計画（食産）

科目名	授業改善計画
食産業学概論	事前・事後学修の必要性から課題については適切な量であったと判断しています。
微生物学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクを使わないという指摘があった。後ろの席は、他授業のレポートをおこない、積極的でない学生が多い。前列の席はかなり空席が目立っており、積極的な講義を促す上で、あえて「マイクを使用しない講義」も行っていきたい。</li> <li>・事前・事後学修ができていないようであった。そこで、事前・事後学修できるような課題設定を行う。</li> <li>・理解度が低いようであった。そこで理解度を向上させるような学習法・レポートなど取り入れる講義法を行う。</li> </ul>
環境科学	<p>アンケートで要望があった部分について、できる限り工夫できるように検討していく。</p> <p>出席確認を兼ねているミニテストについて、授業を受けずに提出している受講生がいること、パソコンで回答する形式の要望があった。ミニテストは平常点になっていることから採点・評価をしており、必要に応じて過去のものも点数の見直しなどで見直すことがあるため、こちらの作業効率を重視して紙媒体としていた。パソコンで回答する形式も検討していく。授業を受けずに提出している受講生については、具体的に厳密な解決をすることが難しいと考えている。どのような形でも代筆のような可能性があり、座席を指定して空席をチェックする形は受講生が嫌がることや時間がかかることが想定される。ただし、授業を受けずに内容を理解せずに提出した場合、出席にはなっているものの平常点は低くなるため（0点もあり得る）、真面目に受講している学生との差別化はできていると考えている。</p> <p>スライドの空欄については、取り入れられる部分で取り入れたいと考えているが、文字の見やすさや説明のしやすさから難しい部分もある（実際にスライドや説明については見やすい、わかりやすいという意見も複数あった）。メモなどの書き込みはノートにしてもらうこと、スライド資料の印刷方法で余白をつくってもらうこと、も組み合わせて考えたい。</p> <p>授業スピードについては、重要な部分をゆっくり説明することや繰り返し説明することで調整したいと考えている。</p> <p>ミニテストについて、曖昧で答えにくい、解答例を示してほしいという要望があった。できる限り答えやすいものに工夫したいと考えている。ただし、受講生には本科目では知識を得ることそのものが目的ではなく、得られた知識から自身で調べること、考えること、それらを文章で説明することが重要であることを理解してもらいたい。こちらで示したポイントからどのように考えるか、それを文章で説明できるか、というスキルを高めてほしいと考えている。答えやすい形式で知識を問うだけであると受講生の理解度の差が見られない（授業を受けずにミニテストを受けても平常点が高くなってしまう）可能性もあり、解答例を具体的に示し過ぎるとそれを暗記して理解せずに中間試験や期末試験でそのまま記述する可能性もある。</p> <p>以上の状況や背景も含めて、講義の初回でしっかりと説明をし、受講生に理解をしてもらうように努める。</p>
生化学	性善説で、出席確認を取っていたが、「いない人も出席になっている」との指摘もあった。今後は厳密な出席管理をする。また、練習問題を提示した成果、予習も前年度より増えているようにおもえた。もっと練習問題を増やして、学習させる。
食材生産・加工実習Ⅱ	前年度に引き続きコロナ禍での実施ということで実習場所（食品加工棟）への入場人数が制限され、通常の半分の規模での実施となった。十分な環境を提供できず実習回数が減ってしまったことは残念であるが、受講生の協力もあり実験実習を行うことができた。通常は1班あたり8人前後の配置で行っているが現在は4人で対応となり、これにより一人一人が関与度が増え、結果的に理解度が増す効果もあった。改善点では、レポートの形式、採点基準についてはできるだけ事前の段階で明確にしたい。
キャリア開発Ⅰ（食産）	<p>”キャリア”を考える際に、”自己選択権”と”自己決定権”は大切です。そのためには、自己理解、環境理解が必要となります。</p> <p>この「キャリア開発Ⅰ」は、環境理解である職業理解に焦点をあてたシラバス構成となっています。</p> <p>地元企業や卒業生の講話を通して、”働く”などの職業観を深め、将来像をイメージできた学生もいたかと思われます。</p> <p>業界・企業・職種研究のレクチャー後、各自、ターゲット企業を絞り、企業研究発表会をオンラインで実施しました。実際に、各自企業研究を行う事で、業界や企業の見方が深まったと思われます。なお、就職活動のオンライン化も念頭に置き、企業研究発表会はTeamsで実施しました。今後の就職活動の傾向を踏まえながら、講義内容も柔軟に対応していきます。</p> <p>また、就職活動の早期化への対応と、大学生活の2年間を振り返るために、自己の文章化も実施しました。改めて大学生活の経験をまとめる事で、今後の大学生活や職業選択に、現時点で何が必要で、何が不足しているのかを実感できた学生も多かったようです。</p> <p>一方、講義内で、ペアワークを実施しましたが、その時間配分が短くなり、有意義な意見交換ができなかったかもしれません。時間配分やワーク結果の共有化など検討致します。また、大講義室で自由席としたせいか、「私語」が多かったとの指摘もあります。ビジネスマナーなどを伝えるのもキャリア科目の役割です。今後、マナーの確認をその都度していきます。</p> <p>就職活動を行う3年次、あるいは将来のキャリア選択に役立つ知識を身に付けられるシラバス構成を心掛けます。</p>

## 令和3年度後期 授業改善計画（食産）

科目名	授業改善計画
キャリア開発Ⅲ（食産）	<p>自信を持って就職活動に臨めるよう、履歴書の書き方、面接練習、オンライン対応などのノウハウを伝えました。</p> <p>進路指導員やキャリア担当教員、TAなどから協力を頂いた面接練習では、実践力を身に付ける事ができたと思います。演習形式で確認できた、個々人の特性について、今後の就職活動サポート体制へ反映できる流れを作っていきたいと思います。</p> <p>「4年生からのアドバイス」では、4名の先輩よりリアルな就職活動を聞くことができ、参考と刺激になったと思われます。また、面接練習の実践では、4年生がTAとして講義に参加してくれ、その際も就職活動のアドバイスをしてくれました。今後も、就職活動を突破した身近な存在である4年生との関りを増やしていきます。</p> <p>この講義とリンクし、職業選択や就職活動などの相談、履歴書添削、面接練習など、進路指導員が個別に対応しています。今後、就職活動のトレンドと学生のニーズを踏まえ、かつ実践的なシラバス構成にしていきます。食産業学群業界研究会や学内企業会社説明会開催など、今後もキャリア開発室や事務室と連携を取り、就職活動や進路選択をサポートしていきます。</p>
食材生産経営学	<p>「食材生産経営学」は、何かを暗記するような学問ではなく、考え方や概念を学ぶものだと思っています。その考え方や概念を体得するには、社会人経験が不可欠なのかもしれませんが、学生時代の読書、サークル活動、アルバイトなどでも十分補完できると思います。</p> <p>タクシー運転手の給料の決め方、アイスの販売方法等の実例を挙げた講義が好評だったので、そういった内容を増やしていきたいと思います。また、レポートでは、自分の理解したことをまとめるように指示しているが、自分の理解や考えを文章にできない学生がいます。授業の中で話させることも重要だが、文章を書かせることもこれまでどおり続けていきたい。</p>
アグロテクノロジー	<p>本科目は4名の教員によって実施しており、基礎的内容にプラスして植物、動物、水産の分野における応用的な事例を紹介する構成で行っている。バランスとしては問題ないと考えているので、次年度も引き続き広範囲にまたがる分野について興味を持ってもらえるような内容を心掛けたい。また、より高い目標に到達できるよう、事前・事後学修を工夫したい。</p>
食と未来（食資源）	<p>授業計画のわかりやすさについては検討を考慮します。</p>
食と未来（フード）	<p>アンケート結果より、良かった点として「各学問において専門家である教授方の、これまで講義において勉強したものの復習となったことに加え、人生における格言を頂けた。」、「1回ごとに担当教員が変わり、講義を受けたことがない先生の話も聞けてよかった。」、「学生生活最後にふさわしい総括のような授業でよかった。」などの声が聞かれ、4年間の学びの集大成として意義のある、また社会に飛び立つ学生へ教員から思いを伝える重要な授業である感じております。ただ、改善点としては、「レポート提出回数が8回は多すぎる。重荷だった。」などの声が複数名から上がったことから、本点については担当教員間で相談の上、見直していきたいと思います。とにもかくにも、本授業は大学での学びを実社会へスムーズに移行させる橋渡しとして重要な役割を担っていることから、今後一層ブラッシュアップを図っていきたいと考えております。</p>
農産食品学	<p>毎回受け付けていた質問に対して、講義時間の関係上、十分に答えることができなかったため、来年度下記の項目について継続的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えさせる小テストの継続</li> <li>・分かりやすい資料の作成（よりバージョンアップする予定）</li> <li>・全員プレゼンテーションの実施</li> <li>・最新の情報の提供（特に映像資料）</li> </ul>
植物生理学	<p>植物生理学の講義では定期的に小テストを実施し、学生の学修促進、知識の定着に努めている。学生も趣旨を理解して、概ねよく勉強している。ただ、一部の学生は、あまり事前事後学修を行っていないような成績となっている。次年度は、事後学修に力をいれ、もう少し成績の底上げを図りたい。具体的には、講義内容の要約を授業後2日以内に提出するなど、確実に振り返りの時間がとれるようにしたいと考えている。</p>
付加価値植物性食材生産法	<p>プレゼンテーションを班ごととし、班構成をできるだけ少人数とした上で3教員の分野ごとに班構成を変え、役割はできるだけ指定する。また、グループワークにおける各班・各自の自己評価を実施し、改善点の提出を求める。同時並行で行われている付加価値植物性食材生産実験実習の内容と関連づけて、プレゼンテーション、小テストなどの講義予定を無理のないように設定し、高い学修効果が得られるようにする。</p> <p>分野ごとの改善としては、病害虫防除分野では他科目でカバーできない害虫分野の専門知識・最新事例の解説を拡充する。育種技術（ゲノム編集）分野では、遺伝子組換え技術、ゲノム編集技術の理解が不足している班があった。基本原理とともに事例解説の時間を十分に確保し、理解の向上を図る。育種技術（水稲）分野では宮城県ブランド水稲銘柄を取り上げて学習を進め、県内の最新動向や実情に関しての事例学習を行なった。県内の動向は時事刻々と変化するため、次年度も、宮城県の最新事例をより深く掘り下げるとともに、付随した専門知識を学ぶことで、実践的考察の時間を確保する。</p>
食資源開発学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テストの実施は学生の学びにプラスになっているので、引き続き実施していきたい。</li> <li>・より高い目標に到達できるよう、事前・事後学修を工夫したい。</li> </ul>

## 令和3年度後期 授業改善計画（食産）

科目名	授業改善計画
畜産食品学	アンケートの結果から、授業に関して、特に大きな問題がないと思われるため、昨年度と同様に、小テスト、期末試験（場合によっては中間試験も）の実施、レポート課題などを行う。中間試験も検討する。 感想などをフィードバックし、できるだけ双方向な授業を実施する。
動物生理学	自主的に生理学関連の本を読む、動画を視聴するなど積極的に取り組んでほしい。講義中に有用な図書等紹介しているので、まずはそれを手に取ってほしい。覚えることが多いが、生理学はすべての基礎となる科目なので努力してほしい。引き続き学生の興味を引き出せる講義を心掛ける。
動物衛生学	来年度は環境問題について講義してもらおう外部講師を招聘予定。環境衛生についてさらに深く学習し、SDGsについての理解も深めてもらいたい。
付加価値動物性食材生産法	学生自身の授業目標への到達度がわかりやすくなるよう検討を考慮します。
循環型動物生産論	検証：本科目は今年で3年目となる科目であり、内容についてはシラバス通りに進められた。全体的に、全体平均より若干低い値であったが、改善してほしいなどの意見はなかった。小テストについては、毎回の講義を復習することができ良かったという意見が昨年はあったが、今年はなく、評価も可がおおかったことから、学生の興味が低かったかと思われる。 改善点：今年の結果を踏まえて、昨年ゲストスピーカーが良かったとの意見もあったことから、予算の都合が付けばゲストスピーカーを呼びたいものである。また、自分の内容は草地をベースにした内容で、動物そのものの内容が少ないことから動物系の学生には受けない傾向にあると思われる。その辺も踏まえて、シラバスの内容を若干修正する。
循環型動物生産論	試験のポイントが明確になるよう検討を考慮します。
植物生産基礎実験Ⅰ	一部の回で、コロナ対策により使用する実験室の収容人数が上限以上となり、実験室を2つに分けることになった。この影響から、同時に進行する2つの実験室での説明等に差異が生じてしまった。この点に関して、次年度以降は説明資料や事前学習資料の充実、TA増員や他教員の応援等の必要な改善策を検討して、状況改善を図ります。
動物生産基礎実験Ⅰ	実験実習の評価は、出席とレポートです。レポートを後からまとめるのではなく、実験を行ったらすぐを書くようにしましょう。
植物性食材生産実験実習Ⅱ	・教員間で連絡を密にし、本実験実習の意義について理解が深まるようなプログラムを構築していきます。
付加価値植物性食材生産実験実習	植物生産科学コースの実験実習として最後の科目であるため、計画立案・実験実施・結果解析と考察について、より主体的に取り組めるよう改善する必要がある。そのため、できるだけ少人数の班構成とし、各班の実験を主体的に計画・実施できるようにする。施設見学も実施するが、屋外施設の見学にも対応できるように日程をやや早める。 微生物分野では、取り組む試料の選択と計画立案を班ごとに実施し、クラス全体で議論して修正したうえで実験を進める。育種分野では、サンプル（トマト）の数量が少なく食味試験が十分にできなかったため、サンプルを確保するべく栽培の仕方を変えて実習を行う。また、水稻の品種改良として、交配法は欠かせない。本年度は実験に使用する水稻の準備を行うことができなかったため、実施を見送らざるをえなかったが、次年度は材料と方法を検討し、交配実験を実施する。
付加価値動物性食材生産実験実習	新型コロナウイルスの影響もあり、授業内容の変更はやむを得ないものと理解してください。
分子遺伝学	植物・動物遺伝育種学をそれぞれ履修していなくても理解しやすいように講義を工夫し解説します。また、特に理論や現象については具体的事例などを示してイメージしやすい講義に努めます。
食品マーケティング論	講義冒頭で事例を用いた演習を毎時間取り入れることができた。この取り組みについては、学習の理解を深めるうえでも概ね好評であったため、今後もこのような機会を設けて実施していきたい。
食産業政策論	授業中に学生相互の意見の共有を図る匿名投稿が可能なアプリを活用した授業は参加しやすく、自分事として考えることができ継続してほしいとの要望がある。このため、同方式を事前・事後学習への接続を強めることが学習効果を高めるうえで有効と考えられる。
食品の安全性管理	アンケート結果より、良かった点として「現場で働いている生の声が聞けたこと」、「講義が分かり易かった」などの声が聞かれたことは、実践力を高める本授業の目的が理解されたと感じております。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習ができていない状況が見受けられることから、今後は、事前に企業の食の安全についての取組等を調べて講義に臨み、終了後に課題を出して復習の取り組みが自主的にできる仕組みを取り入れていきたいと思っております。今後ですが、本学群の卒業生は、民間企業で品質管理の職に就くことも多いので、より実践力を高めるより良い授業となるよう引き続き頑張っていきたいと考えております。また、これからも一層コロナ対策を十分に行いながら、安心安全な講義となるよう努めていきたいと考えております。

## 令和3年度後期 授業改善計画（食産）

科目名	授業改善計画
食品機能開発学	アンケート結果より、良かった点として、「講義資料が穴埋め式で集中して聞くことが出来た。」、「機能性食品の項目が多く、学びが良かった。」などの声が聞かれたことは、食品の栄養・機能性について原理のみならず応用・実践力を高める本授業の目的が理解されたと感じています。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習が若干できていない状況が見受けられることから、次年度も小テストなど取り入れて、予習復習の取り組みが自主的にできる仕組みを取り入れていきたいと思っております。また、改善点として、「テストと講義の内容のレベルが合っていない。テストが難しい」という声が聞こえたことから、次年度は改善します。これからも一層コロナ対策を十分に行いながら、安心安全な講義となるよう努めていきたいと考えております。
発酵食品・醸造学	概ね理解度は進んでいた。しかし、予習が不十分であったので、レポートの書き方などが不十分なものがあった予習・復習の仕方などの指導を徹底したい。
水産利用学	アンケート結果より、授業改革の分かり易さ、目標到達できる内容が低値だったことは改善の余地があると考えています。本授業はフードマネジメント学類の水産食品学とほぼ同じ内容で進めていることから、学類間で差が生じたことについても改善を図る予定です。本授業の履修者は水産に興味を持つ学生であることから、より応用力を高めるより良い授業となるよう引き続き頑張っていきたいと考えております。また、これからも一層コロナ対策を十分に行いながら、安心安全な講義となるよう努めていきたいと考えております。
水産資源学	本授業は水産分野の授業として初めて受講する学生が半数を占める科目である一方で、水産分野に進学したい、より専門分野を学びたい学生も受講しているため、各学生にあった授業内容を行う必要がある。理解度向上に向け事前・事後学習の強化を図り、理解度を高めていきたい。
食品企業経営論	指定テキストを読むだけであれば1時間程度で予習が可能ですが、実際には30分程度しか使われていません。予習の段階で内容をどこまで深められるか、言い換えれば、使われている語句の正確な意味を理解し、使いこなせるかどうか、そして自分の身の周りの具体的企業活動の事例に適用できるかが問われる科目です。経済学と経営学の違いを1/2年のうちにしっかりと理解した上で受講して下さい。授業の最初の30分程度は学生からの前回授業に対するコメントや質問に答える形で「講義内復習」を実施していますが、そこで述べる教員のコメントは良いモノばかりではないことを理解して頂きたいと思っております。場合によっては出された意見に対する厳しい批判という形を取ることもあります。自らの意見を好意的に批判されることも少しずつ慣れていってほしいと思っております。事前にしっかりと予習してきた学生のコメントと何も準備せずにそのまま授業を聞いた学生のコメントでは内容やレベルに大きな違いがありますので、2022年度はそこを踏まえて対応したいと思っております。
食品化学	2021年度は一部を集中講義で行ったが、受講生の協力もありほぼ円滑に講義を行えた。事前・事後学習の設定、試験（成績評価）の方法など、適切な分量となるよう改善を図る必要がある。
品質保証システム演習	本演習は、集中講義方式での実施となった。なお、新型コロナウイルス感染症に対応して2020年度に引き続き、例年とは違った実施方式を取った。集合方式による対面講義をWeb会議方式に変更して実施した。また、グループワークも学生同士の接触を控える目的で、各グループごとのWeb会議方式で実施した。さらに、プレゼンも同様で、Web会議方式での実施となった。 2021年度は、2020年度からひきつづき、やや特殊な環境下での演習実施となったが、内容的には例年と同様であった。食品の製造工程における危害分析は、各現場の状況ごとに想定する必要がある。演習の中では、各グループが実際の現場の様子をできるだけ具体的に想定しながらの実施が求められる。現在、例としていくつかの具体的な例をDVD等映像資料で準備している。これらを有効活用しながら授業を展開する予定である。なお、グループワークについては、実際に対面での実施が望ましいことから、次年度は、状況が整えば対面での演習を再開したい。
フードサービス産業論	特に、授業外の学習時間について、授業中に示す資料を受講者それぞれが読み込むことを想定していたが、実際にはそのような学習が行われていなかったようです。読むべき資料を示すだけでなく、それを踏まえた課題を提示したり、ディスカッションをさせるなど、授業外の学習がなければ授業内の学習が成立しないような設計を行っていきたくと考えています。例えば、配布資料に関する考察を求めるレポート課題や、事例の収集と共有、これらを元にしたディスカッションなどの実施を検討したいです。
食品マーケティング演習	多方面で学生の能力を引き出すことが必要であると思う。
食品企業経営戦略演習	前週に配布する教材を各自が事前に予習して参加するため、必然的に予習時間は一定量が必要になります。また、翌週の課題をこなすためには前週の課題をしっかりと理解していることが前提となるため、復習も兼ねることになり、結局、毎回毎回の積み重ねを十分に要求される授業です。クラス規模は概ね適正であり、ほぼ全員が複数回の発言を求められます。標準的な準備を行う学生はこのクラスを終了した段階で概ね大学ノート1冊を終了することが多いので、このレベルを維持していく予定です。2021年度後期も可能な限りこの演習は対面型で実施する予定です。遠隔になっても基本、やることは同じですが、この演習は対面方式が最も効果的ですので、何とか対面を継続していきたいと考えています。

## 令和3年度後期 授業改善計画（食産）

科目名	授業改善計画
食品経済・政策論演習	今年度は特に関心の高いと思われる新型コロナウイルス感染症の流行と食産業の関係を調査するとして、WEBにある情報の取捨選択、統計に関するExcelの処理、グラフ化などこれまで学んだIoTや統計学的知識を駆使できるよう題材を選んだ。最初に統計IIに関する知識やExcelの技術を復習し、その応用として新型コロナウイルス感染症に関するそれぞれのテーマを探求する。共同学習を促進する観点からグループに分けており、今回は互いに打ち合わせを行いながら自らテーマを深めていく様子がみられた。このような方法では事前・事後の学習というよりは、1つのテーマのために総力を駆使している印象を持つ。教員は、学生がテーマへのアプローチについて困っていたときにアドバイスをする役割で、学生が決めた方針には強く干渉をしなかった。かなり熱心に取り組んだと思うが、ただし授業評価としては学内平均よりも10ポイント程度低い結果になった。
水産食品学	アンケート結果より、良かった点として、「水産食品の成分機能には様々なものがあることを知り、大変興味深かった。」、「映像や、実際に企業の方のお話を聞くことができ理解が深まりました。」、「程よい穴埋めが付された資料、試験前に提示される要点が良かった。」、「企業様のお話を直接聞く機会はなかなか無いことなので、実際にお話を聞く機会があるのが良かった。」、「生徒に親身に接して下さってとても良かったです。」、「授業の速さや難易度がちょうど良かった。」などの声が聞かれたことは、水産物の加工特性や加工法について原理や応用のみならず、宮城県、日本、そして世界での水産業・水産加工業の現状や展望についても理解していただけたので、本授業の目的が理解されたと感じております。ただ、授業評価の中で予習復習など授業外の学習が若干できていない状況が見受けられることから、事前に水産加工の製法等について調べて講義に臨み、終了後に課題を出して復習の取り組みが自主的にできる仕組みを取り入れていきたいと思っております。本学類の卒業生は、地元宮城を中心に民間企業で水産加工品の開発職に就くことも多いので、より応用力を高めるより良い授業となるよう引き続き頑張っていきたいと思っております。また、これからも一層コロナ対策を十分に行いながら、安心安全な講義となるよう努めていきたいと考えております。
食品工学	評価の低い項目である「学生自身の授業目標到達度」については、大学受験時の理科選択科目に物理・化学を選択しない学生がおり、基礎知識に偏りがある現状にある。授業の中で理解度を確認しながら進め、理解度が低い内容については詳しく説明するようにしている。目標到達度は修正せず、より平易な授業となるよう資料の改善を行う。 比較的评价の高い項目である「授業計画のわかりやすさ」「授業マナー遵守への配慮」については、引き続きわかりやすい授業となるようスライド資料を改善するとともに、授業中におけるマナー遵守に努める。
食品栄養・機能学実験	マウスを用いた動物実験について、履修学生は動物の取り扱いが難しいと感じたようであるが、実際、グループメンバーと協働で動物飼育・解剖・分析を真剣に取り組み、結果を取りまとめたので、学修到達目標はほぼ達成できたと考える。実習後のプレゼンテーションと質疑応答では、他グループの結果を共有・比較検討することができ、充実した内容となった。今後の授業改善として、実験実習に関する資料や説明をさらに分かりやすくするよう心がけたい。
食品化学実験	予習が不十分であったので、試薬調製やレポートの書き方などができていない。 予習・復習の仕方などの指導を徹底したい。 来年度以降は、より実践の研究に近い高度な実験を行うように改善する。
グローバルフードシステム論	グローバルフードシステム論では、まず国際貿易の経済理論についての学修をしてもらう必要があり、その理論の要が「比較優位理論」であり、さらにそれを一般化した「ヘクシャーオーリンの定理」である。これらは公務員試験に頻出のものなので、理解し問題が解けるまでに習熟する必要があり、またそのレベルにまで上げるよう授業では工夫している。本来であれば、時間外学修として復習することが期待されるのだが、昨年同様に全学レベルを大きく下回った時間外学修時間となってしまった。概念の学習なので、定着するにはそれなりの時間外学習が必要だが、学び手時に之を習うような、時間的熟成を要するのが概念の学習である。それゆえ、復習を意識していないのかもしれない。このことへの対策としては、授業ごとに「宿題」や「課題」を課したり、時間ごとに小テストをするなど、時間外学習の時間を確認できるような措置も導入することも考えられる。もっとも、そうした概念から湧出してくる「理論」の応用は、日常茶飯の出来事の中で確認することで確固となるもので、そうした実践的な「学而時習之」の時間も合わせて大切にしたいと考えている。
調理科学	アンケートの結果から、授業に関して難易度設定などは改良を行う。全体として特に大きな問題はないと思われるため、昨年度と同様に、小テストや試験の実施、レポート課題などを行いながら、知的好奇心を刺激するような講義を行う。 小テスト・質問などはteams等を使って共有し、双方向な授業を引き続き実施し、学生の理解度や到達度を確認しながら、講義を実施する。